



スクールソーシャルワーカーだより No. 8

《子どもの最善の利益とは！》

— 子どもにとって「いちばん大切なこと」を一緒に考える —

「子どもの最善の利益」とは、大人の都合や期待を優先するのではなく、その子どもにとって今、そして将来にわたって何が一番よいかを考える視点のことです。成績や行動だけで判断するのではなく、子どもの気持ちや背景、成長のペースを大切にします。

具体例① 宿題をやらない・忘れ物が多い場合

「やる気がない」「だらしない」と見えてしまうことがありますが、実は学校や家庭の環境変化や疲れ、不安を抱えている場合もあります。まずは叱ることより、話を聞き、困っている点と一緒に整理することが、その子にとっての最善の利益につながります。

具体例② 集団行動が苦手な場合

行事や話合いでうまく参加できない子どもに対し、「みんなと同じようにできること」を求めすぎると、自己否定感が強まる場合があります。その子の得意な関わり方や安心できる居場所を確保することが、将来の社会性を育てる土台になります。

具体例③ 登校しぶりがある場合

「毎日学校に行くこと」が大切に思えると、無理に登校させようとしてしまうことがあります。しかし、子どもが強い不安を抱えているときは、まず安心して過ごせることが最善の利益となる場合があります。休むことや別室で過ごすことが、結果的に回復への近道になることもあります。

具体例④ 友だちとのトラブルがある場合

「我慢しなさい」「仲直りしなさい」と急ぐよりも、気持ちを言葉にして整理することや、安心して相談できる大人がいることが、子どもの力を育てます。

保護者の皆さまへ

子どもの最善の利益は、「早くできるようにすること」ではなく、その子のペースで力を伸ばすことです。学校と家庭が協力し、子どもの声を大切にしながら支えていきましょう。心配なことがあれば、いつでもスクールソーシャルワーカーにご相談ください。

叱ることは必要？

子どもは、まだ社会のルールや人との関わり方を学んでいる途中です。そのため、「してはいけない行動や、他人を傷つける行為」については、大人がはっきり伝える必要があります。叱ることは、「あなたは大切な存在だけれど、その行動はよくなかった」と教える役割を持っています。

ただし、注意点もあります。

強い言葉で感情的に叱ったり、人格を否定したりすると、子どもは「自分はダメな人間だ」と受け取りやすくなります。そうすると、行動の改善よりも、不安や萎縮が強くなってしまいます。

大切なのは「叱る」より「伝える」ことです。

効果的なのは、

○何が困ったのか(事実) ○なぜ困るのか(理由) ○次はどうしてほしいか(代案)

を落ち着いて伝えることです。

叱る目的は、子どもを従わせることではなく、社会で生きる力を育てること。その視点があれば、叱ることは「必要な関わり」になります。

子どもを叱るときに大切なこと - 行動と気持ちを分けて伝える -

子どもを叱る場面では、子どもそのものを否定しないことが大切です。「どうしてできないの」ではなく、「その行動のどこが困ったのか」を具体的に伝えましょう。

たとえば、約束を守れなかったときは、「またダメだったね」ではなく、「約束の時間が守れず心配したよ」と気持ちを伝えることで、子どもは理解しやすくなります。

また、感情が強いときは一度落ち着いてから話すことも重要です。叱る目的は、言うことを聞かせることではなく、次にどうすればよいかを一緒に考えることです。

《相談日の予定》

2月・3月の予定			
4日(水) 10:00~16:40	6日(金) 10:00~16:40	12日(木) 10:00~16:40	13日(金) 10:00~16:40
18日(水) 10:00~16:40	20日(金) 10:00~16:40	25日(水) 10:00~16:40	27日(金) 10:00~16:40
3月4日(火) 10:00~16:40	3月5日(木) 10:00~16:40		

《相談の申込方法(保護者の皆様)》

- 連絡先 宮浦中学校 64-1591 池田教頭 西小学校 62-3246 常廣教頭
- 相談時間を調整するため、予約が必要となりますので事前に小学校・中学校へ、電話でお申し込みください。相談時間が決まり次第連絡しますので、連絡先もお伝えください。